同志社創立150周年記念特別常設展

「新島襄 召命と志」



アンドーヴァー神学校時代の新島1872年

好評につき開催期間延長!!

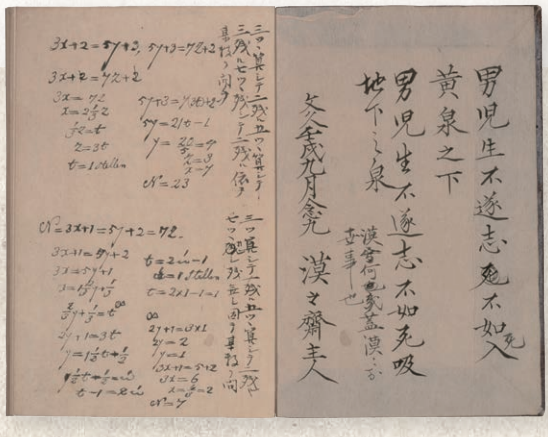
2026年 4月7日～ 10月4日

第1部	志	4/7 ～ 6/7
第2部	キリスト教	6/9 ～ 8/2
第3部	起　業	8/4 ～ 10/4

場所：同志社ギャラリー1階 常設展示室

「新島襄 召命と志」

2025年は、新島襄が同志社を結社し、英学校を開校してから150年の節目です。この間に、日本社会は目を見張るような高度な成長を遂げ、私立学校はその恩恵と様々な影響を受けて今日に至ります。同志社もまた同様で、わずかな教員と生徒で始まった学校は、現在では幼児教育から高等教育までを実践する総合学園となりました。一方で、創立より引き継がれた理念や思想が存在します。それらは創立者新島襄の生き方、考え方、振る舞いに現れ、「良心」や「自由」という表現を用いて語り継がれ、建学の理念となっています。本常設展では同志社の建学の理念のルーツである新島襄の生涯を3つのテーマで辿り、同志社の原点を考える材料を提供します。



代数学のノートに書かれた漢詩

第1部 志

志とは、何かを成し遂げたいという想いの総称であり、その言葉を使う場所、年齢、社会的立場などにより志の意味が変わります。新島もまた同様で、様々な場面で「志」やそれに類する表現を用いますが、場面ごとに意味が異なりました。新島が残した資料から志の意味を考え、「同志社」という言葉の意味を考えるきっかけを提供します。

キリスト教

第2部

青年新島襄が密出国した理由の一つが、キリスト教を学ぶためとされています。その10年後、新島はアメリカン・ボード（海外伝道会社）の後援を得て帰国し、キリスト教を徳育の基本とする同志社を結社しました。新島にとってキリスト教は信仰であり、教育上の主義であり、道徳の原理であり、そして、ステークホルダーと共有する価値観でもありました。新島襄にとって、同志社にとってのキリスト教を資料を通じて概観します。

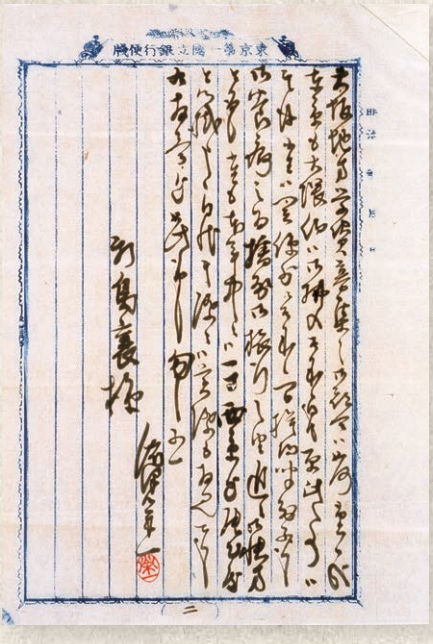


一行書「寧為玉砕恥瓦全」

起業

第3部

新島襄は同志社を結社後、英学校、女学校、予備校、神学校、病院、看病婦学校、理化学校を開校・設立し、並行して私立の大学設立運動を実施しました。これらは新島の学園構想の具現化であり、現在の学校法人同志社の基礎となっています。新島が理想とした学園とは何か、教育を通じて何を目指したのか、その内実を資料を通じて概観します。



渋沢栄一書簡　新島襄宛
1889年8月12日付

新島襄略年表

西暦	事項
1843	2月12日（陰暦1月14日）、江戸にあった安中藩邸で生まれる。
1856	安中藩主・板倉勝明から認められ蘭学を学び始める。
1860	江戸幕府の軍艦教授所に通い、数学や航海術を学ぶ。
1864	備中松山藩所有の帆船・快風丸に乗船し、函館に到着。その後、函館から密出国し、アメリカ商船に乗り込む。
1865	アメリカのマサチューセッツ州ボストンに到着。船主のアルフィアス・ハーディの庇護を受けて、フィリップス・アカデミーに入学（1867年修了）。
1866	アンドーヴァー神学校付属教会で洗礼を受ける。
1867	アーモスト大学に入学（1870年修了）。
1870	アンドーヴァー神学校に入学（1874年修了）。
1872	岩倉使節団の田中不二麿と共に欧米の教育施設を視察。
1874	アメリカン・ボードの年次大会で日本での学校設立を訴え、5000ドルの寄付金の約束を得る。その後帰国。
1875	同志社結社後、11月29日同志社英学校開校。
1876	女子塾（のちの同志社女学校）開校。
1882	同志社大学設立運動開始。
1888	全国の新聞・雑誌にて「同志社大学設立の旨意」が掲載される。
1890	神奈川県大磯にて永眠（46歳11ヶ月）。

2026年度企画展開催スケジュール

場所：2階 企画展示室

第38回企画展　「ハーモニーと共に ―同志社の150年―」

2026年4月1日（水）～5月31日（日）

主催：同志社グリークラブOB会、同志社グリークラブ、同志社社史資料センター

企画展の情報は、ホームページでご確認ください。➡

お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室　Tel: 075-251-2716

ホームページ：https://harris.doshisha.ac.jp/